

いちご新品種「スカイベリー」の品質向上技術の確立

要約

頂花房から1次腋花房までの各花房において、すそ玉のみを摘花して5花に制限するよりも2花目とすそ玉を摘花(果)して5花に制限することで、1次腋花房の果実糖度が向上した。しかし、摘花(果)をすることにより、新たな労働時間が必要となったり、収量が低下することが明らかになった。

○ 展示のねらい

農業試験場いちご研究所で開発した「スカイベリー」は、26年度から一般栽培が始まり、栽培面積も増加傾向にあるが、高品質かつ安定した生産技術の確立が望まれている。そこで、食味の安定に効果があるとされる摘花(果)技術について実証展示を行い、地域での高品質な果実生産の資とする。

○ 主な成果

表1 時期別収量 (g/株)

区	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計	対比
5果区	26	163	242	234	179	171	213	1,228	96
5果改良区	24	155	223	243	143	168	231	1,188	93
対照区	32	173	309	244	142	151	225	1,276	100

※収量は9g以上の果実で算出

総収量は、対照区が1,276gであったのに対し、5花区では1,228gでやや少なく、5花改良区では1,188gで最も少なかった。また、収量比では、対照区に比べて5花区が96%、5花改良区が93%であった(表1)

表2 花房別糖度 (Brix)

区	頂花房	一次腋花房	二次腋花房以降	平均糖度
5果区	10.1±0.74	9.8±0.97	9.1±1.10	9.4±1.10
5果改良区	10.3±0.70	10.1±0.71	9.1±1.22	9.5±1.19
対照区	10.1±0.77	9.4±1.16	9.0±1.07	9.2±1.12

※平均±標準偏差

花房別の糖度は、頂花房及び2次腋花房では大きな差が見られなかったが、1次腋花房では5花改良区>5花区>対照区の順に高い傾向が見られ、ばらつきも小さかった。平均糖度では、5花改良区及び5花区が9.5度程度で、対照区の9.2度よりも高い傾向がみられた(表2)。

○ 今後の方向性

スカイベリーにおいて摘花(果)することにより、果実糖度において品質向上効果が見られたが、労働時間が新たに必要になったり、収量が低下する。

実施機関：上都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：鹿沼市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315